

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

| | | | | | | |
|-----------|---|--|-----|----|------------|--|
| 政策名 | 物流・産業 | 25年度事業・施策評価結果 | | | 責任者 | 企画調整室 企画担当課長 |
| 施策名 | 国際・国内海上輸送機能の強化 | 成果 | コスト | | | |
| 事務事業名 | 伊勢湾連携の推進 | 延伸 | 維持 | 維持 | 連絡先 連携課 | 052-654-7906 |
| 目的 | 対象(誰・何を) | 伊勢湾(名古屋港・四日市港) | | | 事業 期間 | 平成22年度～ |
| | 意図(どうい う状態にしたいか) | 関係者と連携して港湾コスト・サービスの向上、インフラの活用や充実、集貨・創貨の取組を進めることにより、中部地域のものづくり産業の国際競争力を支えていく。 | | | | |
| 概要 | 国、四日市港管理組合及び本組合で構成する、伊勢湾連携協議会及びそれぞれの施策ごとの部会を開催し、伊勢湾連携にかかる具体的施策を進めていきます。 | | | | 根拠 法令等 | |
| 26年度の実施予定 | 伊勢湾連携の推進のため、具体的施策の取組を進めます。 | | | | 実施義務 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| | | | | | 関連 シート | |

2 DO(実施)

| | | | | | | |
|--------------------|--|-------|-------|-------|-------|--------------|
| 26年度に実施した 内容・結果 | 部会のもとに設置した研究会において、効果的な施策の展開や新たな貨物創出・集貨を図るための情報収集・各種検討を行い成果を取りまとめました。 | | | | | |
| コスト | 単位 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 平均 | 備考(費用の増減理由等) |
| 事業費 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 人件費 | 千円 | 3,922 | 3,942 | 3,964 | 3,943 | |
| 合計 | 千円 | 3,922 | 3,942 | 3,964 | 3,943 | |

3 CHECK(検証)

| | | | | | | | | |
|------------------------------|--|--|------|------------------------|---------------------|----|---|------|
| 指標名 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 最終目標 | 30 | 指標の説明・目標値の考え方 | 外部要因 |
| 具体的施策の取組 (件) | 目標 | - | - | 2 | 4(累計) | | ・集貨に関する取組:1施策(既存補助制度の継続及び状況に応じた見直しの実施) ・創貨に関する取組:3施策(背後に立地する物流施設の整備に対する支援の国への要望・関係自治体等への共同ポートセールス・企業ヒアリング) | |
| | 実績 | - | - | 2 | | | | |
| (進行管理型) | 事業進捗状況(26年度) | | | ○順調 | やや遅れ・遅れ | | | |
| 会議の回数(回) | 目標 | - | - | 5 | 5 | | 協議会、幹事会等の開催回数を目標値としています。 | |
| | 実績 | 1 | 3 | 1 | | | | |
| (単年度管理型) | 事業進捗状況(26年度) | | | ○目標値を上回る ○目標値をやや下回る | ○目標値どおり ○目標値を下回る | | | |
| 目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた) | 本年度は、各部会(港湾サービス部会、港湾経営部会、貨物集荷促進部会)を開催しなかったため、事業進捗としては低下したものの、年度末に開催した幹事会において、研究会の成果を取りまとめることが出来ました。また、具体的施策の取組のうち、創貨に関する取組については、本年度2施策の実施ができました。なお、集貨に関する取組については、施策実施に向け検討を行っています。 | | | | | | | |
| 必要性・有効性・効率性の検証 | 評価 | 評価に関する説明 | | | | | | |
| 必要性 | ○ | 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？ ○ 国際産業戦略港湾として、伊勢湾連携施策検討の必要性は高いと考えられるため、引き続き実施していく必要があります。 ○ 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあってるか？ | | | | | | |
| 有効性 | ○ | 事務事業は、施策達成に貢献するか？ ○ 具体的施策に取組むことにより、伊勢湾の連携を推進し、国際・国内海上輸送機能の強化に貢献するものと期待どおりの成果が得られているか？ ○ と考えております。 | | | | | | |
| 効率性 | ○ | 最小のコストとなっているか？ ○ 伊勢湾連携の施策について、両港の関係者で協力しながら効率的に取り組んでいます。 | | | | | | |

4 ACTION(取組)

| | | | |
|---|-------------------------------|--|---|
| 施策評価結果 | 27年度以降の方向性 | | 判断理由 |
| | 成果 | コスト | |
| 継続 | 維持 | 維持 | ・伊勢湾への集貨・創貨に向けて、引き続き有効な施策を検討、実施していく必要があるため。 |
| | 取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。 | | |
| 課題 | | 27年度以降の取組 | |
| 有効な連携施策の検討・実施に向け、行政関係者や港湾利用者など関係者間での調整が必要となります。 | | 伊勢湾連携の推進のため、四日市港と共同して背後圏へのポートセールスを実施するなど、具体的施策の取組を進めていきます。 | |